

# 生命科学学院 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

## ＜生命科学専攻＞

分子レベルから個体レベルまで種々の生命現象を包括的に理解させ、更に生命科学に関する基礎的研究及び応用の研究に必要な深い知識及び能力を有し、独創的な研究を行うことのできる人材を育成するため、以下の方針によりカリキュラムを編成・実施しています。

### 修士課程

1. 広範な生命科学分野における研究の進展・深化と、それに伴う社会的要請に即応し、得られた最新の成果をリアルタイムに反映したカリキュラムを編成・実施します。
2. 多様な科目履修を通じて、研究者及び技術者として必要となる基礎的・先端的な知識を修得させ、かつ課題の解決に向けた実践的トレーニングを課すことにより、将来、先端的生命科学の研究及び開発に貢献し得る実践的専門能力を培う教育を提供します。
3. 生命科学や医療科学の発展が社会と調和するために避けては通れない、生命倫理に関する基本知識を修得させます。
4. 研究成果の社会への還元に対する関心の高まりに応えるため、知的財産権に関わる一般的な理論からバイオサイエンスに関する特殊な考え方までを教授するカリキュラムを提供し、研究成果の適切な取扱い、権利化、事業化等の知識を修得させます。
5. 国際性のある人材育成を目指し、英語によるプレゼンテーションスキルを習得・向上させるための教育を提供します。

### 博士後期課程

1. 問題解決に向けた、より先端的かつ実践的トレーニングを課すことにより、自立した研究者・技術者として高度かつ独創性の高い研究活動を行うために必要な能力を修得させる教育を提供します。
2. グローバルな視点から先端的生命科学の研究及び開発をリードできる人材を養成する教育を提供します。

## 【学修成果の評価の方針】

### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととします。
2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示さないこととします。
3. 「合・否」で成績評価を行うことができることとします。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を検証し、必要に応じて再検討します。

### II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行うこととします。
2. 授業への出欠状況を単に点数化して評価に用いることはできないこととします。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めることとします。

## ＜ソフトマター専攻＞

ソフトマター科学の広範な分野における研究の進展・深化と、それに伴う社会的要請に即応し、得られた最新の成果を反映したカリキュラムを編成・実施しています。

### 修士課程

1. 多様な科目履修を通じて、研究者及び技術者として必要となる基礎的・先端的な知識を修得させ、かつ課題の解決に向けた実践的トレーニングを課すことにより、将来、先端的ソフトマター科学の研究及び開発に貢献し得る実践的専門能力を培う教育
2. 国際性のある人材育成を目指し、英語によるプレゼンテーションスキルを習得・向上させるための教育（サマー・インスティテュート等）

### 博士後期課程

1. 自立した研究者・技術者として、高度かつ独創性の高い研究活動を行うために必要な能力を修得させる教育
2. グローバルな視点から、先端的ソフトマター科学の研究及び開発をリードできる人材を養成する教育（北大コチュテル・プログラム等）

## 【学修成果の評価の方針】

### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととします。
2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示さないこととします。
3. 「合・否」で成績評価を行うことができることとします。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を検証し、必要に応じて再検討します。

### II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行うこととします。
2. 授業への出欠状況を単に点数化して評価に用いることはできないこととします。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めることとします。

## ＜臨床薬学専攻＞

### 博士課程

臨床薬学専攻では、その目的に基づき専門性をもった人材を育成するため、以下の方針によりカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 薬系スペシャリストの養成
2. 疾患解析、治療、創薬研究における倫理・国民目線の重視
3. 高度な専門性に裏付けられた実践的臨床能力の養成
4. 疾患を基盤とする基礎・臨床講義および研究の充実
5. 薬系大学院生の国際交流と地域医療への参加

## 【学修成果の評価の方針】

### I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「養

成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行うこととします。

2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示さないこととします。
3. 「合・否」で成績評価を行うことができることとします。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を検証し、必要に応じて再検討します。

## II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行うこととします。
2. 授業への出欠状況を単に点数化して評価に用いることはできないこととします。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めることとします。